

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糠2264番地1		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果確定日	平成29年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

15年間の運営を通じて、認知症介護における様々なノウハウの蓄積が進み、高度で困難な事例にも対処できるシステムを構築している。経験の浅い職員においてもこのノウハウを指導することによって、より短期間で相当程度の介護力レベルへ到達できるようになった。職員への教育指導の在り方が独自の確立できたことは我々の誇りとすることである。これによって利用者本位の介護を実践でき、施設内はいつも明るく楽しい雰囲気生活にメリハリがあり、訪問されるご家族様から好評を頂戴することが多くある。今後は、地域への働きかけを増加させ、より貢献度の高い施設を目指して努力していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの玄関に企業理念とホームの理念を併記し、やさしく思いやりを持って「利用者をいきいきさせましょう」を職員の合言葉に、一人ひとりの身体状況や精神状態に配慮しながら、生活の中で入居者が役割を持てるように支援している。職員と談笑しながら食器を洗う入居者や、会話の声は聞き取れないがレクリエーションでは大きな声で童謡を歌う入居者の歌声につられて歌う方もある。事故を防止するために、話し合った日々のヒヤリハットの共有や検討内容を、運営推進会議でも報告している。運営者は「新築移転で地域資源の活用が充分にできていないので、校区の活動から参加したい。」と話している。今後は、職員の資格取得を奨励し、労働時間の短縮を検討しながら働きやすい環境づくりで、さらなる理念の具現化への展開が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意義や達成に向けてのプロセス等職員に周知できるよう、機会があるたびに説明を行い、理解をしやすい工夫をしながら日々の業務に活かせる仕組みを作って実践している。	やさしく思いやりを持って「利用者をいきいきさせましょう」を職員の合言葉に、日々の介護に努めている。職員と食器を洗ったり、レクリエーションで童謡を歌う大きな歌声につられて、他の入居者も歌うなど、入居者が役割を持てるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館を通じて年中行事に参加することで、地域から活動内容の認知を得ている。	自治会に加入し、地域の盆踊りの準備や後片付けに職員が参加している。高校生の実習の受け入れは継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒予防教室の開催の際には、職員が意見を求められることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の設置目的を明文化し、「会議録の施設内掲示と利用者家族への報告をおこなっている。	家族代表や地域組長、行政等の参加で偶数月に定期的開催している。行事報告や風水害対策について話し合い、ヒヤリハットの検討内容も報告している。会議内容は、ホームページや玄関に公表している。	運営推進会議設置目的に鑑み、全家族への参加の呼びかけや協議した内容の報告をお願いします。又、会議内容の工夫で、出席者を増やし、意見の表出できる会議を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当部署へは業務相談等を通じてコンタクトを取っている。医療保健相談も事例に基づいて行っている。	居室の空き情報を報告し、入居の相談で市の担当者と連携している。入居者が結核に感染した折は、3ヶ月毎に来訪した保健師から指導を受けて感染拡大を防ぐなど、行政と連携しながら取り組んだ事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員への人権教育を通じて、介護提供における禁止事項を周知させており、拘束に繋がる考え方を排除して実践できている。	職員は身体拘束禁止の具体的な事例を理解し、入居者に対して「待つ」を「すぐ、行きます。」に変えて声かけするよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で周知を図り、理解を深め防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等での解説を行っているが活用の実績はない。相談ができる行政の窓口等が記載されたパンフレットを用意している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者はいない。制度のパンフレット等を整備し、入居契約時や必要と思われる時には説明して窓口の紹介に繋げるよう職員を指導している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全利用者へ行っており、問題はない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体・生活状況等家族に説明をする際、意見や希望を伺い、運営に活かす事を実践している。	家族会は無いが、家族の訪問時等に意見を伺うようにしている。居室間違いを防ぐために居室の入口に名前を大きく貼っているが、家族の意見で本人の目の高さに貼り直している。全家族に恒例の誕生日会、クリスマス会、餅つきなどの行事を案内して、2,3家族が参加されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の会議の際には、広く意見を言える機会を設けて実際に活用できている。	定例の職員会議の他に日勤帯の職員同士で、行事の運営や役割分担等を話し合ったり、レクリエーションについて相談している。夜勤専門職員とは申し送りノートを詳細に記載して、入居者の情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件等、代表者と職員との話し合いの機会を持ち賃金改善や		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	総労働時間の短縮等の検討をおこなっている。	職員の募集・採用に際しては、年齢や資格の有無は問わない。新人職員には3ヶ月間の試用期間を設け、働きながらマンツーマンで研修を実施している。社内規定勉強会の他にDVDを活用して接遇などの研鑽を行っている。資格手当やシフトの配慮で資格取得を奨励され、ケアマネージャーに合格した職員がいる。	職員の段階に応じた研修計画を立て、更なる内外の研修参加を期待します。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用選考において各自の条件を先入観なく公平に判断を行っている。	DVDを活用した人権研修を実施している。折に触れ理念を話題にしながら人権啓発の活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	DVDを使用した研修を実施し、啓発に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の介護事業者の交流会に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の申し込み段階からインテークアセスメントを実施し、早い段階からより多くの情報の取得を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安の解消を第一に考えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の申し込みで得られた情報を基に、行政や医療機関とも密接に連携しながら最適な方法を模索している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力やメンタルに応じて、暮らしを共にする適切な関わり方を探し、提供している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いにより、できる限りの支援を要請し、関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や旧友との連絡や訪問も途切れることがないように支援している。	多くの入居者が家族と共に法事や墓参りに出かけている。自宅近くの菩提寺にお連れしたり、近所の方が面会に訪問されることがある。週に何度も自転車で来訪される家族もあり、調査日も入居者と歓談されていた、	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちし、利用者同士の関係を考慮しながら、お互いが支援できるよう工夫しながら行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後のフォローはもちろん、自宅復帰ができた方においても、定期的に訪問するなど関係が切れることの無いように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表面的な意向に左右されず、内在的な意向を斟酌し、提供・実現に繋げている。	詳細に記載されたフェイスシートやアセスメントシートを整備し、本人の意向の把握に努めている。入居時対人恐怖症があった入居者も少しずつ打ち解けてホームでの生活に慣れ、食堂で一緒に食事できるまでになっている。	アセスメントシートにADLや既往症だけでなく、生活歴や日々の介護の中で把握した情報の記載や共有で、さらなる意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	詳細なアセスメントにおいて、綿密に実施している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化する心身状態の把握を通じて、適切なアセスメントを実施している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日々の利用者の状況や家族と接した時の意見、その他の広汎な状況を総合して介護計画に活かしている。	サービス担当者会議で課題を検討し、個別で具体的な短期目標を設定している。モニタリングした短期目標の達成度を明確に示し、現状に即した介護計画の作成に繋げている。	入居者一人ひとりの介護計画を職員全員で共有し、職員の気づきや提案を活用した計画を作成するために、介護計画を日々記録する業務日誌などに綴じて目を通したり、気づきを話し合う機会を増やすなどの工夫を期待をします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートにより、観察・把握し介護計画にフィードバックする体制である。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の案件について、常に検討し実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公的機関の利用や催事を探り、楽しんでもらえるよう利用している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向の把握を行い、複数の医療機関を受診先に行っている。	家族の同行で入居前のかかりつけ医の受診が継続されている。協力医療機関への受診や専門医受診で家族の同行ができないときは職員が同行している。訪問歯科による口腔ケアや訪問看護事業所との連携で、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市の保健師への相談も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の看護師やソーシャルワーカーといった職種の方々との連携を通じて治療の方針や早期退院に向けての話し合いをおこなっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期の契約段階で概ねの意向把握を行い、健康状態に応じて具体的な提言を行っている。	看取りの指針を整備し、入居契約時に説明している。現在まで看取りはないが、状態変化のたびに家族と話し合い、系列施設の看護師や医療機関と連携して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修等を通じて救命の基礎知識を習得するとともに、個別に外部研修やAEDの訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時行動計画を立案し、行政へ届け出している。	入居者と共に避難訓練を、夜間想定を含めて年2回実施している。消防署の指導による訓練では、職員は10分以内で駆けつけることができたが、誘導に手間取り、今後の課題が明確になっている。法人本部で水、食料、医薬品など備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「よく気が付く」職員さんと言われたいために、日常の言葉使いや表情の指導を常に行っている。	職員は入居者に対して敬意を持って名字で呼びかけをし、口腔ケアやトイレ誘導に際しては、さりげない対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断が不明な利用者へも、選択してもらいながら尊重するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね本人のペースで生活を送っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や身だしなみ、本人の意向を尊重・考慮しながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成しているが、食べたいものの聞き取りを反映して取入れするスタイルが定着している。準備や後片付けもできる方に行ってもらっている。	入居者も職員と一緒に食材の買い出しに行き、3食とも職員が調理し、見守りしながら同じ食事を食べている。「食器洗いは自分の仕事」と思って、自発的に行う入居者がいる。月に1度は外食を楽しむ機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態・嗜好に配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさずにおこなっている。定期的に訪問歯科医のケアを受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助を積極的に行い、成果が出ている。	排泄チェック表を作成し、全員にトイレでの排泄を支援している。夜間、頻尿の方もいるが、失禁には紙おむつやパッドを使用して、排泄のサイクル把握に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を多くして運動や水分、腹部マッサージ等により自然排便を促す努力をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は概ね決めているが、本人の意向を尊重した時間帯に行っている。	週3回を目途に入浴を支援している。浴室暖房のある明るい浴室でゆっくりと入浴を楽しむことができる。車椅子用のシャワーチェアも用意し、職員が一人で見守りや介助をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりとした時間の過ごしやすさがあり、安眠の確保に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則として、個々人の薬の手帳を活用し、服薬の把握とその効能を理解し、変化を記録して医療機関と連携している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こもりきりにさせない事を原点に、様々な工夫や役割分担、楽しみ事の提供を通じて実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や買い物の同行、ご家族の受診対応など外出の機会は多くある。	家族となじみの美容院に出かける方やホームの食材の買い出しの際に2名の入居者が同行される。季節ごとの花見やドライブに出かけ、寒い日でも天気良ければ散歩に出かけて季節を感じていただいている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を所持している人はいない。ホームの買い物に出かけた時は、レジの支払は利用者をお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等時候の挨拶状、お礼状など、折に触れ支援を継続している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や安心感を感じやすくする工夫をし、居心地に配慮をしている。	明るく広々としたリビングに3つのテーブルとソファが配置され、クリスマスツリーやクリスマス会の招待状など色々な飾りが飾られている。リビングの一角は事務室になっているが仕切りがないので入居者の動きが見渡せる。昼食後は思い思いの席で、テレビを見たり居眠りをしたり、歌を歌う姿が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が、各自の思いで過ごせるようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思いでの品や嗜好品調度等、好きなもの安心できるものに配慮した居室を作っている。	居室の入口に、かわいいクリスマスのリースが飾られている。ベッドやタンスはホームの備え付けだが、自宅から馴染みの家具を持参された方もいる。壁には誕生日の記念の色紙などを飾り、安心して過ごせるように設えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りのもと、自分で行う事を原則にしている。		